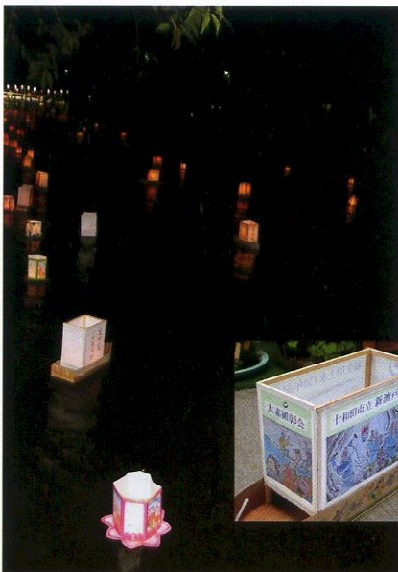




本年軸装が完了した「三本木開墾区域内略図 全」 縦154.5×横241.0 (cm)  
稲生川の計画図 (黄色い線が稲生川)

## 8月16日 稲生川灯ろう流しを開催しました



灯ろうの明かりで稲生川の水面が照らされ幻想的な雰囲気

平成20年8月16日(土)、太素顕彰会、十和田商工会議所、(社)十和田市観光協会の共催で、市の後援を受け、稲生川灯ろう流しを開催しました。稲生川での灯ろう流しは稲生川整備工事のため昭和47年(1972)の夏を最後に中断していましたが、今年稲生川上水150年記念事業として開催しました。18:15太素塚に集合した灯ろう流し参加者は、18:30稲生川に向けて出発し、太素塚通りから稲生町を抜け、灯ろう流し会場の稲生川第一西裏橋まで灯ろうに明かりをともに歩きました。約500人が灯ろう流しに参加し、天候にも恵まれおよそ3,000人が見守る中、19:00頃から稲生川に様々な願いをこめた灯ろうが流されました。今回を機に以前のように毎年開催できればと思っています。



新渡戸記念館として作成した灯ろうには、平成13年に復元した開拓時代の大行灯の絵を活用しました



太素塚に集合後、灯ろうに明かりをともに稲生川まで歩きました。灯ろう行列が稲生川につくまでには参加者が増え、およそ500人が灯ろうを流しました



NEWS

6月21日 十和田市民大学第一講座  
講師・辰巳琢郎さんによる『道草のすすめ』で  
館長代理がパネリストに

平成20年6月21日(土)18:30～20:00十和田市民文化センター大ホールにおいて、人気俳優の辰巳琢郎さんを講師に迎え、十和田市民大学公開講座・第一講座『道草のすすめ』が開催されました。この講座は、講師とパネリストのパネルディスカッション形式で進行され、新渡戸常憲館長代理が、小笠原馨さん(市民大学講座企画運営委員)、鈴木育子さん(フリーアナウンサー)とともにパネリストを務めました。館長代理は市民大学講座の企画運営委員を務めており、開校式とあわせて行われる第一講座の講師に、館長代理が日ごろ親交のある辰巳琢郎さんをお迎えしました。



パネルディスカッションの様子

“「道草」も一生懸命なら真実にたどりつく”として、著書『道草のすすめ』(角川書店)などで団塊の世代にむけた新しい生き方を提案してる辰巳さんからは、様々な話題が飛び出しました。辰巳さんは有名な美食家で日本ソムリエ協会からは名誉ソムリエの称号を贈られており、青森の食にも詳しく、館長代理との友達同士ならではの掛け合いに、笑いの絶えない楽しい講座となりました。



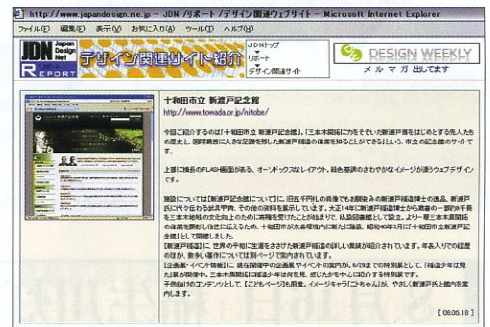
十和田市民大学講座リーフレット



楽しく話を進める辰巳さんと館長代理

6月18日 Japan Design Net で  
当館サイトをデザインの的に優れているとして紹介

平成20年6月18日(水)、日本のデザイン・クリエイティブ活動の支援と情報発信を目的としたサイト『Japan Design Net (ジャパンデザインネット)』の「デザイン関連サイト」コーナーで、当館サイトが紹介されました。このコーナーでは、営利、非営利や規模の大小を問わず、デザイン的に優れたサイトを毎週一つピックアップして紹介しており、トヨタクラウン、コニカミノルタなどの商業広告サイトや、赤い羽根共同募金、愛媛県美術館、世界遺産 高野山などのサイトとともに紹介されています。また、ジャパンデザインネット発行のメールマガジン「DESIGN WEEKLY」(発行部数約120,000部)にも同様の内容が掲載されました。



当館サイトが紹介された「デザイン関連サイト」コーナー

博物館実習生レポート

10日間の実習を終えて

十和田市生まれでありながら小・中・高と八戸市で過ごした私にとって十和田市はどこか遠い存在でした。しかし、小学校の社会科見学で十和田市立新渡戸記念館を訪問した時の印象は強く残っていました。そこで、博物館実習は郷土の偉人をより身近に感じながら出身地・十和田市の歴史を知ることができる新渡戸記念館に…と思い実習を希望しました。実習では主に太素塚の清掃と8月1日からオープンする平成20年度企画展「太素塚 生きもの歳時記—太素の森の動植物展—」の準備、展示資料のキャプション作成を行いました。展示構成を考え、写真パネル、キャプション等を作成、展示するといった、実際にひとつの企画展を完成させる過程に携わったことは貴重な体験でした。実習中に特に感じたことが一つあります。それは、市民の新渡戸記念館に対する思いでした。太素塚の清掃中に声を掛けてくださったり、企画展に協力していただいたり、実習生の私も記念館の一員として接していただき、遠い存在であった十和田市がぐっと身近になりました。学芸員としての勉強はもちろんのこと、館長、館長代理からは社会に対する意識や考え方も教えていただき、10日間の実習は非常に大きな財産となりました。忙しい中、丁寧に指導して下さるなど館員の方々にとっても感謝しております。本当にありがとうございました。

平成20年度第1期博物館実習生(期間:平成20年7月25日～8月7日)  
北海道教育大学教育学部・生涯学習課程生活情報コース4年生  
白山 拓弥



白山拓弥さん

**開催報告** 青森県立郷土館共催 平成20年度企画展

# 太素塚 生きもの歳時記

## — 太素の森の動植物展 —

平成20年 8月1日(金)～9月30日(火)

十和田市の中心部に位置する太素塚の動植物の生態を通して、身近な自然を再発見する企画展を開催しました。共催館である青森県立郷土館からは、太素塚周辺に生息する動植物の標本など44点をお借りしました。



### 館長撮影の太素塚の写真で「歳時記」を構成

今展では、新渡戸明館長が永年に亘って撮りためてきた太素塚の写真を中心に展示しました。館長はライフワークとして太素塚というもっとも身近な自然を、四季を通じて撮影してきましたが、その写真には四季の草花の開花、ウグイスやカッコウといった季節の鳥たちの初鳴き、虫たちの羽化、初雪など、常に見ているからこそ気付く四季の移り変わりが丹念に拾い上げられていました。この写真を時間軸にそって並べることで一つの「歳時記」を構成し、関連する動植物の標本などとともに見ることで、太素塚の自然の豊かさ、繊細な美しさに気づいてもらえればと考えました。

特に、太素塚の奥にある山野草や、四季のキノコ、足元の小さな野の花など、見落とされがちな植物も撮影年月日や植物名を付記して紹介しましたので、身近な自然を探検する手引きとしても活用できる企画展となっています。

### 動植物の標本や生体の展示などを実施

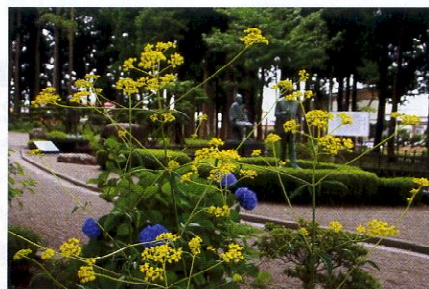
動植物の展示ということで、共催館である青森県立郷土館の自然担当・山内智副参事に、鳥の剥製や植物標本など44点を選定いただきました。来館された方からは「太素塚にはこんなに鳥や獣が来るの？」と驚きの声が聞かれました。

佐藤倉吉さん（市内・むかひ鶴）から、画家・八重樫光行さん（盛岡市）の山野草絵画13点をお貸しいただきましたが、中でも山野草とキノコの絵巻物「かて物」は、植物の食べ方なども解説していて面白く好評でした。

市内の昆虫愛好家・竹林一仁さんからは、クワガタとカブトムシの標本をお貸しいただき、館長代理が採取した生きたミヤマクワガタも併せて展示しました。さらに館長代理が飼っている珍しい南国の鳥ヒノマルチョウ（日の丸鳥）とナンヨウセイコウチョウ（南洋青紅鳥）も展示したところ、大変人気でした。



太素塚の春



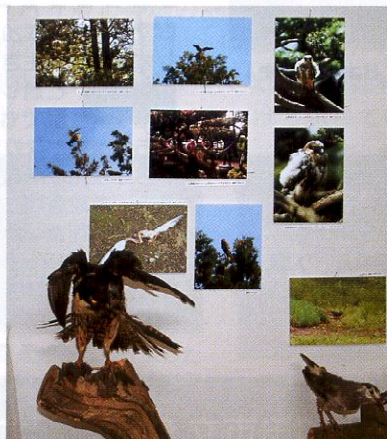
銅像前のオミナエシ



紅葉に降る雪



三本木原開拓と新渡戸稲造の「生きものこぼれ話」コーナー。カッコウの初鳴きなど、生きものについての記述がある開拓日誌のページや、愛犬家だった新渡戸稲造、動物愛護運動に尽力した万里夫人などを紹介した



太素塚のヒバにとまるチゴハヤブサ

チゴハヤブサについて写真と剥製で紹介したコーナー

## mini NEWS

## ■太素塚清掃奉仕

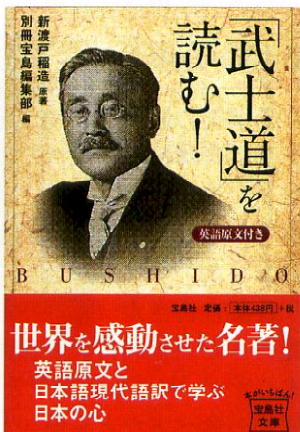
- ・4月27日(日) 6月1日(日) 7月6日(日) 8月3日(日)  
さわやかクラブ様
  - ・5月8日(日) 大学通り老成会様
- ありがとうございました

## ■関連情報

## ▶宝島社新書『「武士道」を原文で読む』が文庫版に

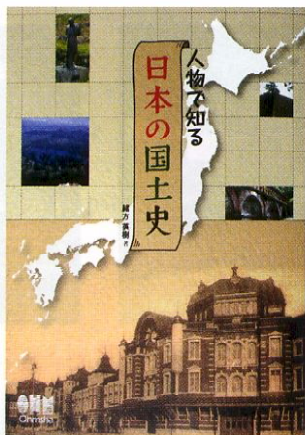
平成18年3月に宝島社より出版された宝島社新書『「武士道」を原文で読む』が、宝島社文庫『「武士道」を読む!』として平成20年6月19日再版されました。当館から提供した肖像写真や直筆の書などの写真28点が再収録されています。当館においても新書版を販売していますが、最近新渡戸稲造による英文『BUSHIDO』の原文に触れてみたいという方が多く、好評です。

宝島社文庫『「武士道」を読む!』



## ▶『人物で知る 日本の国土史』で新渡戸傳を紹介

平成20年8月20日発行の『人物で知る 日本の国土史』(財団法人全国建設研修センター広報室長・緒方英樹 著/株式会社 オーム社)に新渡戸傳が紹介されました。古代から近代まで、日本の歴史を国土づくりの視点から綴った本書は、土木や建築にたずさわった先人・50人を取り上げています。新渡戸傳は、伊能忠敬、上杉鷹山、最上徳内、二宮尊徳などとともに、近世の土木技術史において代表的な人物として紹介されています。緒方氏は平成17年から『週刊文春』のコラム「立ち話」を執筆しており、昨年11月から12月にかけてそのコラムでも3回にわたり新渡戸傳をとりあげていました。



『人物で知る 日本の国土史』

## ▶『芸術新潮』7月号で当館を紹介

平成20年7月1日発行の『芸術新潮』7月号(新潮社)の特集「ローカル・ガイド」に、“森と湖とモダン・アート～十和田市現代美術館を訪ねる「みちのく」の旅～”として十和田市現代美術館、十和田市馬事公苑称徳館とともに当館が紹介されました。

## ■活動報告

▶館長代理がラジオ番組『やさしい音楽の時間』に出演  
音楽学博士であり音楽評論家としても活動している館長代理がラジオ放送局BeFM(八戸市)の『やさしい音楽の時間』(ナビゲーター・大久保隆允さん)に平成20年7月24日(木)・31日(木)[再放送7月26日(土)・8月2日(土)]の2日にわたり出演し、音楽についての対談をおこないました。

▶青森県博物館等協議会ホームページで当館の建物を紹介  
当館は青森県博物館等協議会に加盟していますが、6月末に同会ホームページの『建物拝見!』コーナーに、建築家・生田勉氏が設計した当館の建物について紹介文を寄稿しました。青森県内39館の博物館関係施設が加盟する同会は、各館の連絡・連携をはかり、県内の博物館活動の発展増進に寄与することを目的とする組織です。

## ▶平成20年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

平成20年6月24日(火)10:30から十和田商工会議所5F会議室で、平成20年度第1回太素顕彰会定期総会を開催しました。太素顕彰会会長・石川正憲十和田商工会議所会頭が議長を務め、平成19年度事業報告ならびに収支決算報告について審議が行われ承認されました。また8月16日開催の稲生川上水150年記念イベント・稲生川灯ろう流しの事前打ち合わせが行われました。

## ▶博物館関係会議出席

6月6日(金) 平成20年度青森県博物館等協議会理事会・総会(青森県立郷土館)に館長代理が出席  
6月18日(水) 平成20年度第1回青森県立郷土館協議会(青森県立郷土館)に館長が出席

## ▶東奥日報への連載記事寄稿

平成20年8月27日(水)～30日(土)・9月2日(火)～6日(土)付東奥日報に館長代理による平成20年度企画展紹介記事『太素塚 生きもの歳時記』(9回連載)を、平成20年6月24日(火)～28日(土)付東奥日報には稲生川上水150年記念特別展紹介記事『稲造少年は見たー新渡戸一族の三本木原開拓ー』(5回連載)を掲載いただきました。

## ■編集後記

平成20年度夏の企画展として私の最も得意な分野である生きものにスポットをあて「太素塚 生きもの歳時記」と題して開催出来たことを大変嬉しく思います。企画展でも紹介した太素塚のチゴハヤブサも、いよいよ巢立ちの時期となりました。幼鳥が甲高い鳴き声をあげる度にいずこからか親鳥が餌をくわえてきては泣きわめく難に与えているのを見ると、普段眉間にしわを寄せている私の顔もほころぶというものです。それを遠くから見ているカラス。幼鳥をどうやって襲うのか模索中なのでしょう。チゴハヤブサの親もまた、子カラスを狙い…まるで人間模様を見ているようです。人ゆえに人として人らしい生き方でありたいものです。(館長代理 新渡戸常憲)

## ■ご利用案内

- ・開館時間：午前9:00～午後4:00
  - ・休館日：毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29～1/3)
  - ・観覧料：大学生・一般210円(団体178円)
  - 小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
- 十和田市民は観覧料が無料となっています



十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日  
編集・発行

2008年9月1日  
太素顕彰会・十和田市新渡戸記念館  
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
Tel & Fax: 0176-23-4430  
Email: nitobem@hi-net.ne.jp  
株式会社 岩間印刷

印刷